



自芯

10月号

令和元年10月1日

自ら感動できるからこそ…

体育大会の姿はとても立派でした。自分たちで考え、自分たちで行動する。その姿に成長を感じました。そして、1年生の時からこだわってきた入場行進と大縄とびの回数報告の声。多くを語らずとも、ふさわしい行動ができる姿にうれしさを感じました。

1年生は担任がひっぱり、2年生はともに歩む、3年生は教員が後ろからついていくという、願っていた姿が実現しています。

さて、次は文化祭です。3回目の合唱コンクール。

昨年度は、ひっばってくれた3年生のすごさに感心しながら、3年生が驚くような合唱をめざしました。その2年生の底力があったから、3年生に良い意味で火をつけ、上中の合唱コンクールが少ないクラスの中ではあるけれど、盛り上がりを見せました。上中の「背骨」としての役割をしっかりと果たすことができました。

3年生の合唱でめざすところは

『いかに人を感動させることができるか』 にします。

感動させる相手はだれか、どのようにすればその相手を感動させることができるのか。そのようなことをみんなで考えて、合唱にのぞみます。

よくスポーツの試合をみた人から、「感動させてもらいました」というコメントが寄せられることがあります。そのコメントに対して、感動は他人にさせてもらうものではなく、感動は自分でして感じるからこそ価値があるという批判があります。たしかに箱根駅伝の山登りをしている選手をコタツでごちそうを食べながらみて「感動させてもらった」もないだろうというところでしょう。しかし、たしかにスポーツの試合などをみて「感動させてもらう」ことはあるのです。

それでは、「感動させてもらう」のはどのような時でしょうか。それは、プレーヤー自身がそれ以上に「感動している」時ではないでしょうか。先日のラグビーワールドカップの対アイルランド戦、日本は勝利をおさめ、日

本中に感動がひろがりました。でも、一番感動していたのは選手自身でしょう。彼ら以上に感動を感じた人はいません。

つまり、人を感動させるためには、中途半端じゃない感動を自分たちが感じなければならないのです。自分たちが合唱コンクールの主役になるからこそ、取り組み期間中も主役でいるからこそ、感動がうまれるのです。みなさんの感動が大きければ大きいほど、人を感動させる可能性が出てくるのです。

合唱コンクールで気持ちよく歌いあげる。そして一瞬会場が静寂に包まれ、聴衆からため息がもれ、それを合図にするかのようにワンテンポ遅れて拍手が鳴り響く。そんな合唱をつくってみませんか？

3-1ならできると信じています。人を感動させる合唱をめざしましょう！

第3回進路希望調査提出後について

10月3日締め切りで、第3回進路希望調査を記入してもらっています。中間テストの返却が終わったあたりから、生徒と担任との二者懇談をおこなっていきます。

特に、併願校の記入がない場合は、併願をするかしないかの意志の確認及び考えている私立高校などを聞いていきます。併願校の記入がある場合は、過去のデータと照合して、併願校となりうるかの検討を一緒にしていきます。

3年生は文化祭おわりから、12月の個人懇談までの約1か月が一番しんどく、不安定になりやすい時期です。その時期を乗り越えるための教員のサポートは、ともに考え、ともに話をする事だと考えています。場合によっては、何回も二者懇談をいたします。また、担任以外の教員との懇談も行うこともあります。家庭でも進路の話題に限らず、この時期は様々なことを話す時間を増やしていただければ幸いです。

10月のおもな予定

4日(金)	朝礼(新人大会壮行会)
10日(木)	中間テスト(①理科 ②英語 ③美術) 給食なし
11日(金)	中間テスト(①国語 ②数学 ③社会) 午後授業
14日(月)	体育の日
15日(火)	朝礼
16日(水)	幼稚園交流会
22日(火)	即位礼正殿の儀
25日(金)	オープンスクール 進路説明会
28日(月)	代休(11月2日分)* 11月2, 3日登校 両日弁当要